

Top Interview

— 変革に挑む —

まとめ／堀水潤一 撮影／しだら まさひろ

文京学院大学 学長 川邊信雄



「自立と共生」の精神のもと グローバル社会で自立し 文化を超えて交流できる人に

グ

ローバル化など社会環境の激変を前に、変わらなくてはと感じているのはこの大学も同じでしょう。

問題はどのように変わるかです。まったく新しい問題に対して、既存の枠組みの中で解決しようと試みてうまくいきません。グローバル人材の育成という課題にしても、従来のように官主導で窓口を作りエリートを育成するという方法はなじまないでしょう。何も全員が、日本国の代表として国連で演説をするというタイプのグローバルリーダーを目指す必要はないからです。

その点、本学が育成したいのは、世界中のどんな地域で働くことになっても、現地の人々と自由闊達に交流でき、コミュニティーのリーダーになれる人材

であり、海外にいても日本国内にいるのと同じような感覚で生活できる、国際人としての素養をもった市民です。

その実現に向け、2013年度から Bunkyo GCI（文京グローバルキヤリア・インスティテュート）というプログラムをスタートさせます。全学部から履修生を選抜、各学部のカリキュラムと並行して「英語教育」「異文化間理解」「ギャリア開発」「グローバル専門力」からなる独自カリキュラムを4年間にわたり展開します。大学での学びにまだ慣れていない1年次に、「語学・異文化理解留学」を実施するのは、カルチャーショックを受け、意識変革を促したいから。その体験をその後の学びに生かし、上級学年で実施する本格的な留学や

海外インターンシップにつながります。

GCIの前哨戦として、11年度から「新・文明の旅プログラム」という取り組みも開始しています。文京学院の創立100周年にあたる24年まで、3年ごとにバルト3国や中央アジア諸国などユーラシア大陸各地に、2〜3週間ほど学生を派遣します。目的は、多様な情報をキャッチし、日本を外部に発信すること。文化の異なる人々と交流する中で刺激を受け、国際社会で自立して生きていくことの意味や、共生していくことの意味を考えてほしいと思います。「自立と共生」は本学の建学の精神。グローバルな視点で、それを捉えなおしてもらえればうれしいです。

本学ではさまざまな行事が学生主導で実施されています。「ステューデント・リーダーズ・フォーラム」は、サークルや自治会など学生の代表が集まり、大学の在り方や改善点について経営陣や教職員と意見交換をする場。また、在学中の活動や学びの成果を後輩に伝える発表会「てっぺんフォーラム」も学生主催で行われています。いずれも、「自立と共生」を体現した取り組みです。大学運営の意思決定にかかわったり、取り組みを発表する機会をもつことは、学生生活に活力を与えるはずですよ。

【学長プロフィール】かわべ・のぶお●1945年生まれ。早稲田大学第一商学部卒業。同大学大学院商学研究科博士課程修了。博士（商学）。米国オハイオ州立大学大学院博士課程修了。Ph.D.（オハイオ州立大学）。早稲田大学商学部教授、マラヤ大学客員教授、ロンドン大学客員教授、ペニス国際大学客員教授などを経て、2011年より現職。

【大学プロフィール】1924年創立の島田裁縫伝習所を前身に、91年開学。外国語学部（英語コミュニケーション学科）、経営学部（経営学科）、人間学部（コミュニケーション社会学科、児童発達学科、人間福祉学科、心理学科）、保健医療技術学部（理学療法学科、作業療法学科、臨床検査学科）。